



SRI SATHYA SAI



SRI SATHYA SAI RAM NEWS

LOVE ALL SERVE ALL HELP EVER HURT NEVER

No.223 / 11月ご降誕祭号 / 2023

神性は、太陽よりも輝かしく、
純粋な雪よりも清らかで、
風元素や空元素よりも繊細であり、
すべての生き物に内在している
神性は、小宇宙と大宇宙に浸透している
神はすべてのものの中に存在しているが、
何にも属していない
あなたはブラフマンの中にいて、
ブラフマンはあなたの中にいる
実に、あなたとブラフマンは一つ
これ以上、何を伝えることがあろうか？



目に見える、このはかない世界には、人間の知らない多くの神秘的な力が存在します。それらは超越的な力や隠れた力と呼ばれています。誰もがそれらを理解できるわけではありません。どの創造物にも神の力が備わっています。だからこそ、

私はいつも皆さんに

「ディヴィヤートマ スワループラーラ」

(神なる真我の化身たちよ)

と呼びかけているのです。

空気は容易に空気と混ざり、火は火と、水は水と容易に混ざります。それと同様に、神は光の姿そのものです。あなたが光になりなさい。そうすれば、あなたは普遍なる光と一つになるでしょう。神は無形です。あなたが無形の神に融合するには、体との自己同一視を捨てなければなりません。アートマ〔真我〕の原理に集中しなさい。



一つのものしか存在していませんが、それにさまざまな名前と姿形があるのです。一つのものだけが存在しているのです。「0」ゼロはその前に数字がある場合〔例：10〕に、価値を得ます。世界も生命も太陽も月も空も、すべてはゼロ〔zero／無価値〕です。一なるものだけがヒーロー〔hero／英雄〕でありそれは神です。人間（本来は神である者）は、神を忘れるとゼロになります。





CONTENTS



- サイの御教え
「あなたのハートを高潔な気持ちで満たしなさい」
「決してあきらめない」
- サッティヤム・シヴァム・スンドラム
- Sri Sathya Sai Baba 様ご生誕100周年記念ヴィジョン
「解脱への王道 - 愛の道」
- ワカ チンナ カタ
「母と母国」
- サイと共に
- ベジタリアン クッキング
「デーツ入りココナッツクッキー」
「トウジンビエ粉パン」
- 帰依者体験談
- 活動報告：スタディー サークル



サイの御教え

あなたのハートを
高潔な気持ちで
満たしなさい

73歳御降誕祭の
ババの御講話



我々の母国は、すべての大陸で
名高い高潔な魂たちを世にもたらした
この国は、外国の支配者たちを追い出して

自由を獲得した国

このバーラタは学問で評判の国であり、
音楽、文学、神聖な伝承の分野で
模範である神聖な国

ああ、帰依者たちよ！

母国の栄光と繁栄を育むことは、
すばらしい芸術と自然の美しさで知られる
バーラタの地に生まれたあなた方の義務

(テルグ語の詩)

神性は、太陽よりも輝かしく、
純粋な雪よりも清らかで、
風元素や空元素よりも繊細であり、
すべての生き物に内在している
神性は、小宇宙と大宇宙に浸透している
神はすべてのものの中に存在しているが、

何にも属していない

あなたはブラフマンの中において、
ブラフマンはあなたの中にある
実に、あなたとブラフマンは一つ
これ以上、何を伝えることがあろうか？

(テルグ語の詩)

愛の化身たちよ！ バーラタは、霊性、正義、慈
善、

非暴力、そして、平安が生まれた場所です。バーラタで見られる、これらの特性への忠誠心は、他のどこでも見られません。バーラタは、サブタリシ（七聖仙）と最初の詩人ヴァールミーキが生まれた場所です。ここは、ダルマの体現者であるラーマが統治する神聖な国であり、クリシュナによって神の歌であるギーターが歌われた国です。バーラタは、個々の魂と普遍の魂は一つであると宣言した国です。神聖さと正義と平安の国であるバーラタのような国は、他にありません。バーラタの大気には真実が浸透しています。バーラタの土には思いやりが浸透しています。バーラタのガンジス河には愛が満ちています。この国の人のハートには寛容さが宿っています。これほど高潔で、神々しい、無類の性質は、バーラタだけに現れているものです。

神の磁力

神は全能であり遍在です。

サルヴァム カルヴィダム ブランマー
(まさにこの一切はブラフマンなり)

科学と霊性を探求すると、どちらも同じ真理を肯定していることが分かります。神の存在は、科学によって、電気、磁気、レーザー、ラジオ〔放射〕、熱、光波といった形で可視化されており、これらは

遍在です。これは、神の存在を示す直接的な証拠です。神性は、あなたが食べるもの、飲む水、吸う空気の中に存在しています。この世には、磁気のない場所はありません。磁石とは何でしょう？ 鉄の含まれた物を引き寄せる物だけが磁石なのではありません。この世に存在するすべての物は磁力で満ちています。母は子を引き付ける磁石であり、子は母を引き付ける磁石です。同様に、夫と妻はお互いに引かれ合います。草は牛にとっての磁石です。花はミツバチの磁石です。このように調べていくと、すべてのものに磁気の原理が適応していることがわかります。ヴェーダーンタは「ラーマヤティ イティ ラーマハ」（引き付けることはラーマの原理なり）と明言しています。哲人たちはそれを「神の磁力」と呼び、科学者はそれを「バイオ コズミック パワー」または「スーパー パワー」と呼んでいます。ですから、ヴェーダーンタの支持者も科学者も、同じ神の力をさまざまな名前や形で経験しているということです。

遍在する神性の体験

目に見える、このはかない世界には、人間の知らない多くの神秘的な力が存在します。それらは超越的な力や隠れた力と呼ばれています。誰もがそれらを理解できるわけではありません。どの創造物にも神の力が備わっています。だからこそ、私はいつも

皆さんに「ディヴィヤートマ スワループラーラ」（神なる真我の化身たちよ）と呼びかけているのです。

医者たちは人体の秘密や神秘を理解できていません。例えば、舌を見てみましょう。舌には4万個の味蕾（みらい）があります。熱を発する舌の蕾（らい）は2万5千個あります。眼球は1インチ〔約2.5 cm〕にも満たない大きさですが、1万3千種類の光線を認識することができます。あなたの体には無数の細胞がありますが、細胞の一つひとつは神であり、各細胞にあなたの姿全体が入っています。畏敬の念を覚えませんか？ これは誰の創造物でしょうか？ これこそが神性の超越的な力です。

神性が存在しないと考えるのは愚かなことです。この超越的な力を理解できない人は、神の存在を否定します。実際には知らないのに知っているふりをしてはいけません。神の存在を否定する権利は誰にもありません。「ムンデー ムンデー マティル ビンナハ」（考えは人それぞれ）です。どの人にも自分の信念があります。

「No」と言う人への返答は「No」
「Yes」と言う人への返答は「Yes」
「No」と「Yes」はあなたに付随する
しかし、サイはいつでも

「Yes」、「Yes」、「Yes」
(テルグ語の詩)

すべての力は人間の中に潜んでいる

人は形のないものの存在を否定する傾向にあります。目に見えないからといって、ラジオの電波が存在していないわけではありません。デリーのラジオ局から放送される番組は、ラジオをその局の周波数に合わせれば、どこでも聞くことができます。人の体はラジオに例えられます。神を体験するには、形なき神に周波数を合わせる必要があります。人の体はコンピュータでもあり、そこにはとても多くの秘密が潜んでいます。心（マインド）はテレビのようなものであり、たくさん名前や姿形がそこに映し出されます。体は発電機でもあります。これら一切の要点は、すべての力は人間の中に潜在しているということです。

アインシュタインは、物質はエネルギーに、エネルギーは物質に変換できることを示しました。エネルギーはすべてを包含しているのです。ニュートンは、エネルギーは創造も破壊もできないと言いました。しかし、エネルギーは一つの形から別の形へと変換することができます。哲人たちはこれをさまざまな方法で説明しました。

神には誕生も死もない
神には始まりも終わりもない
神はどこにでも存在する
神は永遠の照覧者

(テルグ語の詩)

現代の科学者たちは、この真実を理解できていません。彼らが知り、理解していることは、全体のほんの一部にすぎません。アウェアネス（気づき）とは何でしょう？ それは完全な理解です。完全な理解とは、神性の遍在を知ること、経験することです。

先ほどスピーチをしたヴァージペーイー首相〔バジパイ首相〕は、人々がモークシャ（解脱）を得るためにしている努力について言及しました。モークシャとは何を意味しますか？ モーハ クシャヤ（完全なる無執着）がモークシャ（解脱）です。これはどういう意味でしょうか？ 空気は容易に空気と混ざり、火は火と、水は水と容易に混ざります。それと同様に、神は光の姿そのものです。あなたが光になりなさい。そうすれば、あなたは普遍なる光の一つになるでしょう。神は無形です。あなたが無形の神に融合するには、体との自己同一視を捨てなければなりません。アートマ〔真我〕の原理に集中しなさい。いつも体に執着していたら、どうやってアートマ、つまり普遍なる原理を悟ることができますか？ アートマに集中しなさい。そうして初めて、あなた

の良心は普遍意識に融合するのです。この融合は、サーユッジヤ（神との融合）と呼ばれています。

ヒーローはただ一人、それは神

エーカートマ サルヴァブータータラートマ
(同一のアートマが万物に宿っている)

一つのものしか存在していませんが、それにさまざまな名前と姿形があるのです。一つのものだけが存在しているのです。「0」（ゼロ）はその前に数字がある場合〔例：10〕に、価値を得ます。世界も生命も太陽も月も空も、すべてはゼロ〔zero/無価値〕です。一なるものだけがヒーロー〔hero/英雄〕であり、それは神です。人間（本来は神である者）は、神を忘れるとゼロになります。

愛の化身たちよ！ 神はあなた方と別のものではありません。あなた方は神です。この真実を探究し、理解しなさい。一生を研究や実験に費やしていたら、いつあなたは実践するのですか？ 個々人は、名前や姿形や態度は違うかもしれませんが、アートマ〔真我〕は変わることなく内在しています。水は言語によって異なる名前と呼ばれます。テルグ語ではニール、ヒンディー語ではパーニー、タミル語ではタンニー、サンスクリット語ではヴァーリと呼ばれます。名前はさまざまですが、水に変わりはありません。

それと同様に、神にはさまざまな名前と姿形がありますが、アートマの原理は同じままです。アートマはすべての人に共通しており、良心と呼ばれています。良心は意識〔普遍意識〕から生じたものです。有神論者であれ、無神論者であれ、有神論者と称する無神論者であれ、無神論者と称する有神論者であれ、すべての人がこの事実を認めなければなりません。ボーギ（世俗的な快樂の人）であろうと、ローギ（病気の人）であろうと、ヨーギ（平常心の人）であろうと、ヴィイラーギ（離俗の人）であろうと、アヌラーギ（執着の人）であろうと、アートマの原理は誰においても同じです。

体は色の付いた風船に例えられます。風船の大きさや色は違いますが、風船の中の空気は同一です。同じ空気が風船の中にも外にも存在しているのです。風船の中の空気は良心に例えられ、あらゆる所に遍在している空気は意識に例えられます。風船にどんどん空気を吹き込んでいくと、最終的には破裂して、中の空気（良心）は外の空気（意識）と融合します。同様に、あなたの愛を拡大しなさい。そうすれば、体への執着という風船が破裂して、あなたの内なる良心は外の意識と融合します。良心と意識の違いは、質ではなく量でしかありません。

愛の吸引力は神性

引き付ける力は神性です。小さな例を挙げましょう。今日は何万人もの人がここに集まっています。誰かがあなたを招待したのですか？誰かがあなたに招待状を送ったのですか？招待状は送られていません。では、どうしてあなたはここに来たのですか？スワミへのあなたの愛が主な原因です。誰も強制的にあなたをここに連れてきたわけではありません。皆さん全員がこのことを知っています。政治的な会合には、人々がトラックで連れてこられます。来ないようにと私が何度も言っているにもかかわらず、あなた方は依然としてここに来ています。愛の吸引力は神性です。それは神の磁石です。

ラーマヤナにも同じような話があります。ジャナカ王は、娘のシーターと同じようにシヴァダヌス（シヴァの弓）を持ち上げることのできた者とシーターを結婚させようと考えました。シーターはブージャター（母なる大地の娘）であったため、生まれつき磁気の力が備わっていて、シヴァダヌスを難く持ち上げることができたのです。シヴァの弓を持ち上げて弦を張ることができたのは、神の磁石であるラーマだけでした。こうした神聖な磁石は誰の中にも存在しており、違うのは強さの度合いだけです。その強さは愛によってのみ増すことができます。私とあなたは一つであるという一体感を養いなさい。一体感の至福を体験しなさい。神はあなたの中にいます。あなたは神です。あなたがこの真実を認識し

た時、いかなる種類の疑念の余地もなくなるでしょう。

誤りは、創造物ではなく見方にある

称賛と非難は内にあるものの反映です。高潔な人は決して他人を批判しません。そのような神聖でない行いにふけるのは、卑しい者だけです。あなたが見る色は、あなたがかけているメガネの色によります。愛のメガネをかけなさい。そうすれば、周囲のすべてに愛が見えるでしょう。間違いは、創造物ではなく、あなたの見方にあるのです。批判を重視してはいけません。もし誰かが大声であなたを批判したら、その声は空気の中に消えてしまいます。もし誰かが心の中であなたを批判したら、それはその人自身に戻ってしまいます。その人はあなたの体を批判しているのですか？体は不活性です。その人はアートマを批判しているのですか？同じアートマがあなたにもその人の中にも宿っているのですから、その人は自分の自己〔アートマ〕を批判していることになります。この事実気づいた人は、真の真理の探求者です。

人は自分の中にある何百もの欠点をわかっていないのに、他人の最も些細（ささい）な欠点を指摘する傾向があります。自分の中の悪いところは、他人の中の悪いところとして反映されます。まず自分を

正しなさい。そうして初めて、あなたの心は清らかになるのです。ですから、神聖な思考を育みなさい。人間の内には多くの力が存在しています。小さな例をあげてみましょう。私が東アフリカに行った時、偉大な信者であるパテル医師が、鉄製のヘアブラシをプレゼントしてくれたのですが、私が髪をとかすと、髪が自然とヘアブラシに引き寄せられます。それは男子学生たちも目撃しています。今日、私がそのことを公表しているのは、私の内に神聖な磁力が存在することを皆さんに理解してもらうためです。その磁力が、ここにいる皆さんを引き付けたのです。私の愛は、私の最大の財産です。

Love is My form——愛が私の姿
 Truth is My breath——真実が私の呼吸
 Bliss is My food——至福が私の食事
 My life is My message——
 私の人生が私のメッセージ
 Expansion is My life——拡大が私の人生
 No reason for love——愛に理由はなく
 No season for love——愛に時季はなく
 No birth, no death——誕生もなく、死もない

愛は与えることによって生きる

神の力は生まれることも死ぬこともありません。私は褒められても嬉しくありませんし、責められて

も落ち込みません。私は人生のこうした二元性を平静に扱います。私は苦楽のどちらにおいても幸せです。私の中には愛しかありません。私の愛は、与え、与え、与えることで生きています。愛は決して受け取りません。これが、私の愛と、受け取ることだけを考える世俗の愛との違いです。だからこそ、私の愛はずっと拡大し続けているのです。小さな種が、多くの枝と実をつける巨大な木になります。その木の一切は、小さな種に起源があります。それと同じように、被造物は愛から生まれました。愛は神です。愛の中で生きなさい。愛を育みなさい。すべての人を心から愛しなさい。愛が現れて、初めてあなたは自己実現〔真我顕現〕を達成するのです。

まず、自信を身につけなさい。自己信頼が土台です。自己満足が壁であり、自己犠牲が屋根です。自己実現がその家（人生という大きな館）です。すべては自己に包含されています。自己とは、アートマ、神霊のことです。このアートマの原理を用いて霊的な知識を得なさい。霊性の中にある力は無限です。愛の力は、原子爆弾の力をはるかに上まわっています。愛の力は、憎しみを抱いている人をも変えてしまいます。そのような神聖な愛を育みなさい。そうして初めて、バーラタ人の間に調和が生まれるのです。先ほどスピーチをしたチャバンは、至る所で暴力が横行していると述べました。人々の悪い思考がその原因です。ひとたび愛が芽生えれば、共同体に

憎しみはなくなるでしょう。だからこそ、私は学生たちに繰り返し言っているのです。

一日を愛で始めなさい
 一日を愛で満たしなさい
 一日を愛で過ごしなさい
 一日を愛で終えなさい
 それが神への道

同じ神の力がさまざまな名前と姿形を持っている

神は、創造、体系化〔維持〕、破壊の原因です。同じ神の力がさまざまな名前と姿形を持っているのです。例えば、アーンドラ プラデーシュ州の首相は一人しかいません。すべての部署は大臣たちが管理しており、大臣たちは首席大臣の直接の監督下にあります。

それと同様に、全世界は3つの基本的な活動である創造、体系化〔維持〕、破壊の上に成り立っています。創造の面はブラフマーが、体系化はヴィシュヌが、破壊はシヴァが司っています。こうした権限の分散は、世界を円滑に機能させるために不可欠です。この3つの力を統合したものがGod、神です。Godという単語はG・O・Dという3つの文字で構成されています。GはGeneration「生成」、Oは

Organisation「体系化」、DはDestruction「破壊」を意味します。このブラフマー、ヴィシュヌ、マヘシュワラの3つの側面が神を構成しているのです。誰も神の存在を否定することはできません。もし誰かが「神はいない」と主張するなら、その人に「あなたには、私の確信に疑問をはさむ権利はありません」と言いなさい。神の存在を否定する人には神は存在しないかもしれませんが、神を信じている人には神は存在します。「God is nowhere——神はどこにもいない」と言う人がいるかもしれません。nowhereのwhereからwの文字を取ってnoにつなげると「God is now here——神は今ここにいる」となります。これらはすべて、言葉の組み立てです。

神の原理を理解しなさい

人は心の狭い感情によって人生を無駄にしています。人は自分と家族のことしか考えていません。これは愛の収縮です。全世界を一つの家族と考えなさい。それが愛の拡大です。さまざまな国は、世界という大きな家のさまざまな部屋のようなものです。それらの部屋に住んでいる人たちすべてを自分の兄弟姉妹と考えなさい。そのような関係を人類同胞と築けば、あなたは誰も憎まなくなるでしょう。

愛の化身たちよ！ 神性の原理を理解するよう努めなさい。この世界には、神以外、何一つ存在しませ

ん。この世界は物質とエネルギーから成り立っていると言う人がいるかもしれませんが。実際は、エネルギーだけがあり、物質はありません。あなた方が目にするどんな物質も、時間が経てばエネルギーに変わります。これは布です。布は糸でできています。糸は綿でできています。ですから、綿と糸と布は同一です。それと同様に、名前と姿形はさまざまですが、根本原理はただ一つであり、それは神性です。現代では、善いことをしている人を批判する人はたくさんいますが、善い行いに携わる人はほとんどいません。

学生諸君！ 少年少女たちよ！ あなた方はバーラタと世界の解放者です。あなた方は未来のリーダーであり弁論者です。リーダーシップの資質を身につけなさい。

ローカー サマスター スキノー バヴァントゥ
(世界中が幸せでありますように)

ヴァージペーイー〔バジパイ首相〕は、「サルヴァ ブータ ヒテー ラタハ」(すべての生き物の幸福を願う)と言いました。誰もが健康で幸せであるべきです。それが私の本当の誕生日です。多くの方が私に「ハッピーバースデー」(幸せな誕生日でありますように)と願います。その願いを、幸せでない人たちに伝えなさい。私はいつも幸せなのに、私の

ために願う必要がどこにありますか？

ブラフラーダは、父親は息子が社会的に良い評判を得て初めて喜ぶのであって、息子が生まれた日を喜ぶではないと言いました。マーナヴァ〔人間〕とは何者ですか？ マーナヴァは、まさしく神の化身です。「マ」は「無知」、「ナ」は「～がない」、「ヴァ」は「自分を律する」を意味します。ですから、「マーナヴァ」とは、「無知をなくして自分を律する者」という意味です。あなた方は気づきが化身した存在です。自分に付いている名前にのっとった行動をしなさい。あなたにティヤーガラージャ〔犠牲の王〕やラーマ〔喜びを与える者〕という名前が付いていたとしても、それだけでは不十分です。それらの理想に沿って生きるべきです。

私たちが口にする食べ物には、神の力が宿っています。どの学生も、バランスのとれた食事をしなさい。オレンジジュース、トマトジュース、ライムジュース、リンゴジュースは、酸が多く含まれているので、とても健康に良いものです。葉野菜は、ビタミンも鉄分も含まれているので、栄養価が高いです。体は健康でなければなりません。健康な体があれば、どんな仕事でも引き受けることができます。

私の誕生日のメッセージ

どこかに神を探しに行く必要はありません。神はあなたの体の隅々に、毛の一本一本に、内在しています。だから、シーターが感謝の印として真珠の首飾りを差し出した時、ハヌマーンは首飾りの真珠を噛んで捨てたのです。それらの真珠にはラーマの御名が鳴り響いていなかったからです。なぜそんなことをしたのかとシーターに問われたハヌマーンは、こう答えました。「あなたは真珠の価値で判断なさいますが、私は主の御名の神聖な響きに耳を傾けます。私にとって、ラーマの御名の伴わない宝石は石ころ同然です。私の体毛にはどれもラーマの御名が染み込んでいます」

このように、神性はバーラタ人のすべての細胞、すべての毛に浸透しています。だからこそ、マックス・ミュラーをはじめとする多くの外国人は、この聖なる地に生まれて死ぬことを望んだのです。ヨーガ〔神との合一の行／自制〕とティヤーガ〔犠牲〕の神聖なこの国に生まれていながら、これらの聖なる価値を支持しないのは残念なことです。真のバーラタ人の人生を送りなさい。他の人々のために身をもって理想を示し、みんなを幸せにしてください。これが私の誕生日のメッセージです。

今日はこの体の誕生日です。実際には、私に誕生日はありません。皆さんがここに集まったので、私は今日を誕生日として祝っているのです。私には、

この誕生日は重要ではありません。あなた方全員が幸せな日が、私の本当の誕生日です。私は何も欲しません。皆さんがプレーマ〔愛〕とティヤーガ〔犠牲〕とヨーガ〔神との合一の行／自制〕を吸収して、それによって神性を経験するとき、私は幸せでしょう。私は、皆さんが平安と安全の中で理想の生活を送ることを願っています。この縁起の良い日に、あなたのハートを高潔な感情で満たし、神の御名を唱えなさい。

1998年11月23日

プラシャーンティ ニラヤムの
サイクルワント ホールにて
Sathya Sai Speaks Vol.31 C44





ババからのお手紙

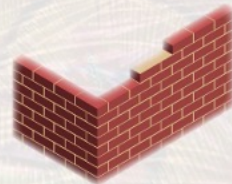
決して
あきらめない



私の愛する者よ、

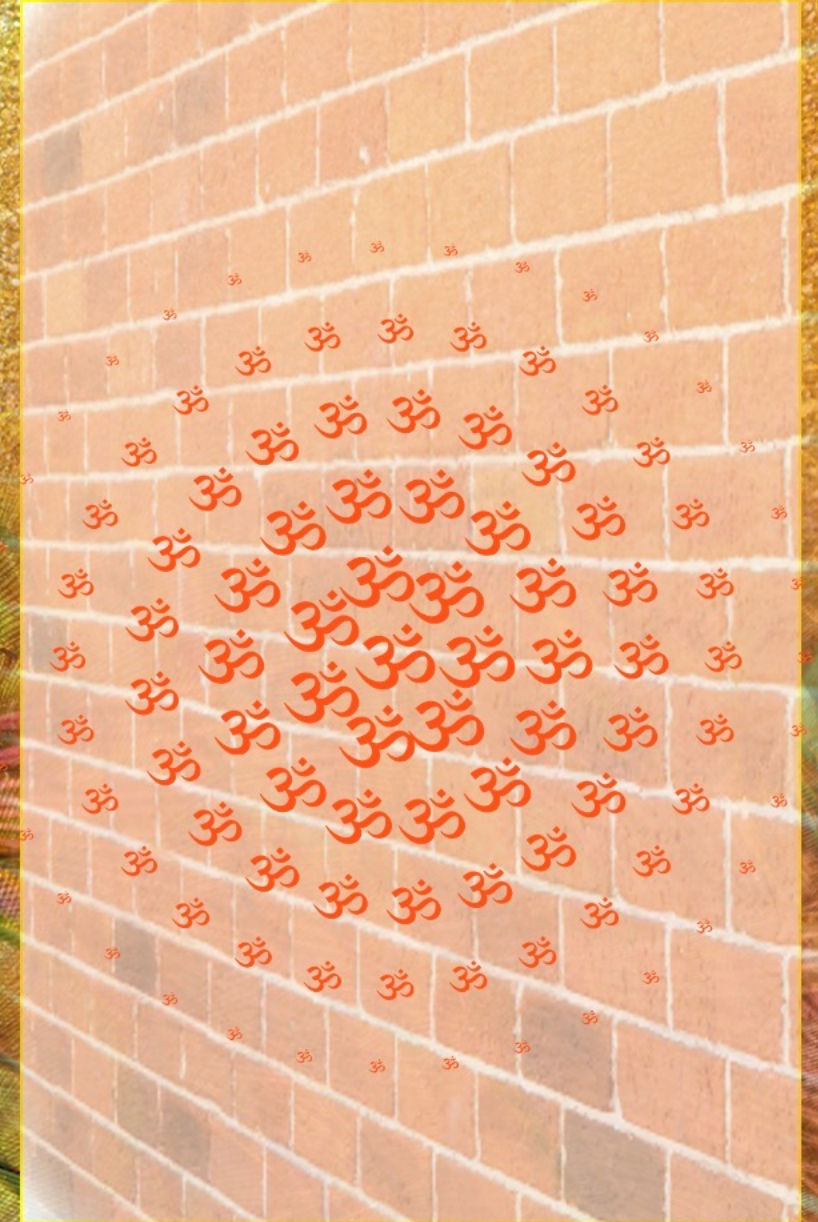
瞑想にトライ、心が静まるようトライ、リラックスにトライ。トライし続けなさい。あなたが行う前向きな努力は、どれ一つ無駄にはなりません。レンガを一つ積み上げるたびに、レンガ造りのお寺は完成に近づいていきます。

ですから、トライし続けなさい。すると、ある日、突然、あなたは心の低次の領域を突破して黙想の領域へと入り、「そうだ、分かった、私は理解した、今、自分がいる道が完全に分かった」と言えるようになるでしょう。トライし続けなさい。あなたはどこかで始めなければいけません。あなたが語ることでできない自分、それについて、あなたは、もしあなたがそうしたいと思うなら、ある方法で考えてみる事ができるでしょう。それは、あなたの心、体、感情を感知して、知ることです。



祝福と共に
ババ

1971年11月12日
Prema Dhaara Part2 No.45



サッティヤム シヴァム スンダラム 5

第56回

人類を「肉体による暴政」から「魂の解放」へと救い出すためにこの世に降臨された、神なる導師の最も確かな証しの一つは、最高の真理を最も単純な形にする、という驚くべき手腕にあります。神の比類なき英知は、明らかに矛盾した求道者たちのアプローチを統合し、究極のゴールへといざないます。この見事な超人的巧みさには、現代の一般人の日常生活から適切な例を上げて崇高な原理を理解させる、ぴったりの比喻を使って要点を具体的に説明することですべての人の注意を引き付ける、人生を支配している深遠な法則を語呂合わせや言葉遊びを用いて認識させる、といった能力が含まれています。そうすることで、自然とインスピレーションが湧き上がり、知性的認識と直感的体験との間にある大きな隔たりに橋を架けるようにして、古代の経典といったものに新しい光を投げかけるのです。

導師のこうした教えは、まさしくハートの中から、

そして、すべての英知の根源から生まれたものであり、それゆえ、すべての人のハートの中にすんなりと入っていきます。それらは、単純で理解しやすく、容易に実践できるものです。もし私たちがそれらを真剣に実践するなら、必ずや人生の究極のゴールに到達できるでしょう。愛に満たされた蜜のような言葉に耳を傾けていると、学者も無学の人、ほっと安心した気持ちになります。言葉といっしょに喜びと平安が聞き手のハートにもたらされるのです。

この章では、本書で扱っている時期にバガヴァン・ババがなされた御講話の内容、手法、要旨、表現方法について、考察を加えたいと思います。1980年から1982年までの最初の三年間の主要なテーマは、教育でした。1980年にはブラシャーンティ・ニラヤムにカレッジが創設され、1981年には大学が開設されました。1983年には、すべての宗教は一つであること、人として生まれたことの特別な意味、そして、アヴァターの意義といったことにアクセントが置かれました。1984年になされた御講話では、人が自らを変容させて、自らの由来が神であることを理解し、自らが神としての運命を悟るようにと、バガヴァンが強く勧めておられるのが分かります。1985年の主な焦点は、セヴァ（奉仕）とサーダナ（霊性修行）に置かれていました。シュリ・サティヤ・サイ・オーガニゼーションの第四回世界大会は、その年、ババの60歳の御降誕祭に合わせて行われました。

もちろん、ババのメッセージの底に流れているものは、いつものように、「人の霊的な変容と社会の福祉」でした。

バガヴァンは、ヴェーダーンタ哲学の最高の真理の数々を、非常に単純な言葉で表現していらっしゃいます。バガヴァンの「ブラマ——幻想——が消え去るとき、ブラフマン——神——に到達する」という言葉は、ヴェーダーンタの真髄を表しています。人の生涯の最高のゴールは、ブラフマンに到達することです。それによってのみ、人は永遠の至福を手にすることができ、すべての悲しみと苦しみに終止符を打つことができるのです。

「サルヴァム カルヴィダム ブラマ——
——存在するものすべてはブラフマンのみである。」

しかし、人は、マインド（頭、思考）によってもたらされた肉体意識すなわちエゴというブラマ（幻想）のせいで、多様性や違いを見ます。これと同じ真理が、バガヴァンによって別の単純な形で語られています。

「霊的な数学においては、 $3 - 1 = 1$ なのです！」

ここでバガヴァンが語っておられるのは、パラマートマ——神、プラクリティ——自然、

ジーヴァートマ—個々の魂、の三位一体についてです。プラクリティは鏡であり、パラマートマは対象物、ジーヴァートマ（個我）はその映しです。鏡を取り除けば、そこに残るのは本体のみです。映っていたものは鏡の消滅とともに消えてしまいます。肉体意識によって生じたプラクリティという幻影が取り除かれたとき、すなわち、マインドが消滅したとき、ジーヴァートマはパラマートマとなるのです。

幻想を取り除く方法は何でしょうか？バガヴァンはおっしゃいます。

「ドリシティー—見る目が、プレーママヤムとなる
とき、スリシティー—創造物—は、ブラフママヤム
となります。」

愛の眼鏡を通して世界を見ると、あなたは神のみ
を見るでしょう。このように、愛は万能薬です。さら
に、ババはサーダナのエッセンスを次のように簡潔
に述べられています。

「信あるところには愛あり。

愛があるところには平安あり。

平安があるところには真実あり。

真実があるところには至福あり。

至福があるところには神あり。」

すべての価値の源である根本的な価値は、愛です。
バガヴァンはこう宣言なさっています。

「語る愛は真実。

行う愛は正義。

感じる愛は平安。

理解する愛は非暴力。」

霊的な道における成功の基本的な必要条件と何で
しょうか？

「不道徳な行いをやめることが、不死への唯一の方
法です。」

とババはおっしゃっています。純粋なハートと非の
打ちどころのない人格が、霊的な生活の基本となり
ます。同様に、ババは簡潔にこう述べられています。

「チッタシュッディがグニャーナシッディへと導
く。」

つまり、マインド（心）の純粋さが霊的英知へと
導くのです。

では、マインドの清らかさはどうやって手に入れ
たらよいのでしょうか？ババによれば、

「チッタ シュッディはニシカーマカルマ〔離欲の行
為〕によって得ることができる。」

つまり、無私の奉仕こそが、世俗的な欲望や執着
心という不純さを取り除いて、マインドをきれいに
することができるということです。

ゆえに、バガヴァンはこうおっしゃっています。
「セヴァサーダナ（奉仕という修行）は最高のタパ
ス（苦行）です。」

ババが簡略に述べられた次の言葉の中に、霊性の
道の土台となっている真髓を見ることができます。
「行いは、愛を込めて神に捧げられると、礼拝へと
変わります。礼拝としてなされた行いは、英知へと
つながります」

すなわち、霊性の道の第一歩は、神への信仰と愛
なのです。次の一歩は、人類同胞への無私の奉仕で
す。

世界が抱えている数々の問題へのバガヴァンの解
決策は、実に単純です。世界の福祉への鍵となるの
は、個々人の変容です。バガヴァンによれば、

「ハートに正義があれば、人格に美しさがもたらさ
れます。人格に美しがあれば、家庭に和がもたら
されます。家庭に調和があれば、国家に秩序がもた
らされます。国家に秩序がもたらされれば、世界が
平和になります。」

個々人の不正は社会不安を作り出します。では、
人々のハートにしっかりと正義を据え付けるにはど
うしたらよいのでしょうか？ババは宣言なさってい
ます。

「神への信心を欠いた人間社会は、獣たちのジャン
グルへと退化しました。」

正しき人間社会は、人が靈的に変容して初めて繁栄することができるのです。

人々のハートの靈的な変容はどのようにして始まるのでしょうか？ バガヴァンはこう答えておられます。

「主に従い（Follow）、悪魔に立ち向かい（Face）、最後まで戦い（Fight）、ゲームを終わらせなさい（Finish）。」

これら四つのF（従うFollow・立ち向かうFace・Fight戦う・Finish終わらせる）に添って道を行くことで、人々のハートの中に隠れている主を、無知という偽りの覆いから解き放つことができるのです。生活の中で戦い続けるというのは、内なる主の声である良心の呼びかけに応じて五感の罠から目をそむける、というマインドの戦いのことです。ババはおっしゃいます。

「インドリヤ（五感）に従う人は、パシュすなわち動物になります。ブッディ（知性）に従う人は、パシュパティ（動物の主）すなわち神となります。」

この戦いをするために、社会から離れて森へ入る必要はありません。その解決策をバガヴァンは独特のスタイルで述べておられます。

「頭は森の中に、手は社会の中に！——両手を使って社会で働きなさい。けれども、頭は神に決めていなさい。」

ですから、人のハートにおわす神を信じるのが、幸福な世界の土台なのです。



シュリ サティヤ サイ ババ様 御生誕100周年記念ヴィジョン



ハートの中におられる神様を絶え間なく憶念し
人類同胞愛という一体性の花を捧げます



解脱への王道 - 愛の道

SSSIOJ会長 住友正幹

私たちをこの輪廻に縛り付けているのは、私たち自身です。それ以外に誰も私たちを縛るものはありません。それゆえ、解放の地に辿り着くためには、自縄自縛（じじょうじばく）の原因である自我を消滅させなければなりません。

自我を消滅させることは自己を失うことではなく、真の自己に還ることであり、アハムという真我意識に目覚めることでしょう。

そのために、それぞれの境地に従って霊性修行を行うことが求められますが、サイババ様は、それぞれの霊性修行についてどのように言及されているのでしょうか？

1) カリユガといわれる現在の暗黒の時代に、サイババ様が最も推奨されているのは、ナーマスマラナ（自分が定めた神の御名を唱える、あるいは憶念すること）だといわれています。

ナーマスマラナに関するサイババ様の御言葉

あなたは、瞑想や、苦行や、ヨーガなどの厳しい

霊性修行はできないかもしれません。でも、もし神の御名を唱えればそれで十分です。最も簡単な道、すなわちナーマスマラナ（唱名）に進みなさい。クリタユガでは、瞑想が解放の手段として定められました。トレーターユガでは供儀でした。ドワーパラユガでは人々は礼拝を行いました。

“このカリユガではナーマスマラナ（唱名）だけがあなたに解放を与えることができる。これに勝る偉大な道はない”（サンスクリットの詩）

ですから、神の栄光を歌いなさい。そして世俗の海を渡りなさい。ナーマスマラナはすべての霊性修行の基礎です。 — Sathya Sai Speaks Vol.35

ナーマスマラナは、いつも神の御名を憶念することで、心を神に向け、自我を抑制することになるでしょう。

2) 霊性を高める（＝自我を克服する）効果の高い修行は奉仕活動だと言われています。サイババ様は奉仕について、次のように説かれています。

ニシカマ カルマ（無私の奉仕）は、人間の持つ獣性を根絶やしにし、神性を授けます。奉仕は瞑想、バジャン、ヨーガなどの他の方法に比べて、霊性を高めるより効果的な方法です。なぜなら私たちが瞑想、バジャン、ヨーガを行うときは、自分の利益の

ために行っているのであって、他の人々のために行っているのではないからです。これらのことは、自分自身の煩悩を克服するのが目的で、自分の幸せを確かなものにしようとして行うのです。私たちは個人的利益を欲することなく、他の人々の幸せを強く願うべきです。無私の奉仕は博愛の香しい花です。それは奉仕する人や、それを指示する人の自己満足のために行われるべきではありません。人が生を受けたそもその目的は、奉仕にあると考えるべきなのです。 — 『奉仕による修行』 p.66

いかに奉仕活動が大切であるかをババ様は次のようにも説かれています。

奉仕は最も優れた霊性修行です。なぜなら、神御自身が人類に奉仕するために人間の姿をして降臨し、それまで無関心でいた崇高な目的へと人々を導くからです。ですから人間が人に奉仕するとき、神がどれほどお喜びになるかを考えてもごらんください。

3) 最も心を魅了する霊性修行は、バジャン（神への賛歌）ではないでしょうか？サイババ様はバジャンの意義を次のように説かれています。

しばしばカリユガ（暗黒の時代）として非難される今の時代は、実際は人が最もたやすく解脱を得られる時代です。今の時代、人間は、ナーマサンキールタンという霊性修行（神の栄光を歌い、歌われた

神の御名を聴くこと)によって解脱を得ることができるからなのです。信愛の九つのステップの中でも、「神の栄光を聴くこと」と「神の栄光を歌うこと」は最高のものであり、挙げられています。(中略)サンキールタンは、グループメンバーの解脱への進行を助けるのみならず、聞き手にも、さらには聞き手の輪を超えた所にいる人々にさえも恩恵をもたらします。そして、そのバイブレーションによって全世界が恩恵にあずかることができます。

—『バジャン神への賛歌』p.61

4) ヴェーダを学び、詠唱し、その叡智を実践することは何より、サイババ様の降臨された目的に沿っています。ヴェーダに関してのサイババ様の御言葉です。

ヴェーダに傾けている私の愛(プレーマ)は、実に、人類に傾けている私の愛(プレーマ)と同等です。覚えておきなさい、私の使命は、ちょうど4つの要素から成っています。それは、ヴェーダ ポーシャナ(ヴェーダの復興)、ヴィッドワト ポーシャナ(ヴェーダ学者の復興)、ダルマ ラクシャナ(ダルマの守護)、バクタ ラクシャナ(帰依者の守護)です。私の恩寵と私の力をこれら4つの方向に沿って広げながら、私はその中心に我が身を置いています。

—1962年11月23日 御降誕祭の御講話より

サイババ様の降臨された目的に沿い、ヴェーダの

復興に資することは大きな貢献となるでしょう。

5) ガーヤトリーマントラを唱える

サイババ様はガーヤトリーマントラについて次のように説かれています。

ガーヤトリーマントラは普遍的な祈りであり、あらゆる地方、あらゆる宗教の人々が用いることができます。ガーヤトリーマントラは、ヴェーダ シャラ、すなわち「ヴェーダの教えの真髄」であると考えられています。もし、ガーヤトリーマントラを定期的に唱えるなら、ヴェーダを唱えることによって得られるすべての報いを手に入れることができます。 — 書籍『ガーヤトリーマントラ』より

ガーヤトリーマントラはすべてのマントラの真髄であり、すべての神性な神の御名の真髄です。それゆえ、もし個々の神の御名を唱えなくとも、ガーヤトリーマントラだけを唱えていれば問題ありません。ガーヤトリーを唱えるなら、様々な神の御名を唱えるのと同じ利益が授けられます。

— 書籍『霊性修行の手引き』pp.27-28

6) 坐禅(瞑想)は真我を直接体験する霊性修行です。サイババ様は坐禅について次のように説かれます。

坐禅によって、あなたの帝国である楽園を記憶に入れて、心の創造物を夢や幻として追い出すことが

可能です。体系的に、落ち着いて坐禅に従事することによって、坐禅を効果的で安らぎのあるものにすることができます。このようにして、最上の体験への道が開かれます。鮮明で、波立つことのない、新たな理解のあけぼのがやってきます。坐禅の高みに達すると、その理解は非常に強力なものとなるので、人の低次の性質は滅ぼされ、焼き尽くされて灰になります。すると、『あなた』だけが残ります。創造世界の一切は、あなたの心の妄想です。存在しているものは一なるものだけです。それは真理であり、主であり、実在・覚醒意識・至福であり、至高の真我です。その一なる者は自分自身である(我はシヴァなり)ということです。

以上のように、それぞれの霊性修行は自我を克服し解脱を得るためにどれも有益であり、それぞれが自分にあった霊性修行をすることが望まれます。その上で、サイババ様は次のようにも説かれていることを知っておく必要があります。

人々は解脱に関して奇妙な観念をもっており、解脱には天国に行って永遠に生きることが含まれていると想像しています。解脱はそのようなものではありません。解脱とは、無私の愛という、不変で、衰えることのない、完全なるものを獲得することです。人が到達しようと努める状態はこれです。この状態に達して、初めて人は真に解放されます。解脱のためと称して、求道者たちがあらゆる霊的な道を試み



ています。そうした修行はどれも、せいぜい一時的の満足をもたらしてくれるだけです。あなたを本当に解脱へと至らせ、永遠の至福を授けることができるのは、純粋な愛の道のみです。

—2000年5月21日 御講話より

無私な愛、神への愛がなければどんな靈性修行も空回りします。愛のないナーマスラナは口癖に過ぎません。愛のない奉仕活動は、労働に過ぎません。愛のないバジャンは自己満足に過ぎません。愛のないヴェーダは詠唱に過ぎません。愛のない坐禅は時間の浪費に過ぎません。それらは自我を強化することがあっても、消失させることは叶わないでしょう。

サイババ様は「純粋な愛の道」だけが解脱へと至らせると説いておられます。同様に、イエス様もまた、神の国に還るためには愛の道を通らなければならないと説いておられるのです。

イエスは言われました。「私が道であり、真理であり、いのちなのです。私を通してでなければ誰一人父のみもとに来ることはありません。」（ヨハネ 14：6）

イエス様は十字架で拷問を受けた時に、「父よ、彼らをお許してください。彼らは何をしているか自分で分からないのです」と祈られました。

イエス様が「私を通してでなければ誰一人父のみ

もとに来ることはありません」と言われたのは、イエス様が人生を通して示された愛の道、そして最後の瞬間にも示された赦しの道を通らなければ神に還ることはできない、という意味ではないのでしょうか？

愛の道がいかに大切かを知る実例があります。普通の人の中でも、愛の道により神に還る境地に達した実例があるのです。

エドガーケイシーは信頼できる靈能者として知られています。ケイシーのリーディングの正確な記録は現在も残されていて、その中でライフリーディング（過去世からリーディングしてアドバイスを与えるもの）は1919件記録されています。

その中で18名（女性14名、男性4名）について、彼らは、次の転生が必要ない状態であることを告げているのです。いったいどんな人たちなのでしょう？

リーディングを受けた18人は、1924年から1944年までの間に、いろいろな場所からケイシーを訪れました。教育歴、社会的背景、職業はかなり違います。彼らの前世もさまざまでしたが、共通する特徴を見出すことができました。

それは、彼らは今生では、見かけこそ違え、奉仕のためには私的関心を捨てることも辞さないという共通性を見ることができるのです。

その人達へのリーディングは次のように述べます。（抜粋）

- ・その人は地上生の大部分において「与えることに」徹してきた。
 - ・受けとるより、常に与えることに徹し・・・
 - ・常に自分より他を優先させ奉仕する・・・
 - ・どの世界にあっても他者の向上に尽くす・・・
 - ・利己主義はこの人の存在の一部をなしていない・・・
 - ・まことにおのれを征服することは多くの世界を征服するより優れている。
 - ・人は自分を奉仕に投げ出す時のみ覚醒する。
- 『転生の終焉』（バイオレット・シェリー著）より

彼らは、決して聖人でもなければ、修行（難行苦行や極端な禁欲）を行ったわけではないのです。今生の中でも失敗や後退もしていますが、それでも愛の道を歩んだ方々です。

どのような状況でも愛を示し、他者に尽くすことは、神の道具として生きる道を歩む人の共通性です。それは自己犠牲、つまり自我の放棄の姿です。その生き方が自分自身を救うことになるのでしょうか。愛の道を歩む人は、解放はすでにその人のものに違いありません。

ワカチンナカタ

母と母国

シュリ・ラーマとラクシュマナは、ヴァーナラ〔猿〕族の軍団に助けられ、猿たちが築いた橋を渡って海を越えました。彼らはランカー王国を征服し、ラーヴァナ王を殺し、シーターを救い出しました。ラクシュマナはすべてが光り輝くランカーの町を見て、言いました。「兄上、なぜアヨーディヤーに行かなければならないのですか？ あそこは兄弟のバラタに治めさせておきましょう。ランカーはあらゆる点でアヨーディヤーよりも繁栄しているように見えます。兄上はランカーの統治者になれます。ラーヴァナに勝利して彼を退治するという手柄を立てたのですから、兄上はそれだけの功德を得ています」。ラーマは愛情深くほほ笑みながら、断固たる口調で答えました。「わが弟、ラクシュマナよ！ たとえ自分の母親がどんなに醜くても、別の女性を自分の母親と見なすことはできない。同様に、ランカーがどれほど繁栄して魅力的であっても、私にはランカーの宝石や富は必要ない。私の生まれた場所は、私にとってより神聖でより愛おしい。まことに、それは私にとって天国そのものだ。弟よ、覚えておくがいい。母と母国は、天国そのものよりも価値があり、愛おしいと見なされるべきなのだ」

ここで、言及しなくてはならないことは、ラクシュマナがわざとこの奇妙な質問をしたのは、古（いにしえ）の太陽王朝の優れた王やその後継者であるインドの統治者たちの中においてさえ、個人の

幸福と国家の幸福への配慮が見事に融合していたことを世の人々に知らしめるためだった、ということです。

マターブーミ プットローハム
ブリティヴィヤー（ハ）
大地はわが母、われは大地の子供なり

——アタルヴァ・ヴェーダより

サイと共に

1998年8月13日の会話



ジャンマアシュタミー（クリシュナ神御降誕祭）のプログラムの詳細について

スワミ： 雌牛は何頭ですか？

学生たち： スワミ、20頭です。

スワミ： 雄牛は何頭ですか？

学生たち： スワミ、雄牛はいません。

スワミ： 雄牛は40頭です。

（そこに座っていた学生たちを指差して）

牛たちはどこに連れてくるのですか？ サイ・クルワント・ホールの中には連れてこないようにしなさい。中に入れると牛たちは滑ってしまうでしょうから、外に立たせておきなさい。私がそこまで行きます。

（ある学生に）

あなたの兄弟はどこですか？

学生： すべての人が私の兄弟です。

スワミ： え！？ あなたの兄弟はどこですか？

学生： スワミ、後ろに座っています。

スワミ： ああ！ 後ろに座っているのですか？

（ある学生に）

ギター（スワミの飼われている象のサイ・ギターのこと）は来ますか？

（学生は答えられなかった）

ああ、彼らは知らないのですね！

（教師を呼んで）

ギターは来ますか？

教師： スワミ、来ます。

スワミ： 雌牛は何頭来ますか？（ある学生に）

教師： スワミ、20頭です。

スワミ： ニルガイは、誰の手にも負えません。お腹を突き刺されてしまうでしょう。

教師： はい、スワミ。本当にお腹を突き刺されてしまいます。スワミ、鹿も連れてきましょうか？

スワミ： いや、人ごみの中で鹿を扱うのは難しい。

教師： 鹿は125頭いて、そのうちの20頭は黒鹿です。

スワミ： そうです、125頭います。しかし、鹿は私のそばに寄ってきません。私はもうずっと彼らの所に行っていないからです。

教師： スワミ、ブリンダーヴァンの鹿は、よくなつていて、スワミに近づいてきます。

スワミ： そうです、私が呼ぶと寄ってきて、私を与える餌を何でも食べます。私はブリンダーヴァンの鹿もここに連れてくるべきだと思っています。20年前、いや、いや、30年前、マドラス州（現タミル・ナードゥ州）の政府が2頭の鹿をくれました。一頭はオス、一頭はメスで、アシュラムで飼うとよいでしょうと言われました。それが増えて、何頭にもなりました。最近、40頭が持ち出されました。鹿たちは撃たれ、倒れるとトラックに載せられました。

（ある学生に）

何を撃ったか分かりますか？

学生： スワミ、鎮静剤です。

スワミ： 眠らせて運びやすくするために、（麻醉銃で）鹿に薬を打ったのです。彼らに楽器を与えなさい。

教師： スワミ、もし小鹿のころから餌付けしていれば、容易に寄ってくるでしょう。スワミ、孔雀も連れてきましょうか？

スワミ： ここへはいけません。コントロールするのが難しい。

教師： スワミ、孔雀の足を縛って連れてくることができます。一ヶ所に座らせておけます。

スワミ： いや、孔雀は連れてこないように。孔雀は何羽いますか？

教師： スワミ、三羽です。

スワミ： 三羽だけですか？ ここで生まれたのですか？

教師： はい、スワミ。私たちは、ニワトリの卵と同じように、孔雀の卵も（離して）置いておくのですが、どれほど守ろうとしても、ほとんどの場合、卵はヘビに食べられてしまいます。網をかけておいてもだめなのです。

スワミ： そうです、ヘビはポールさえも這い上がり、網をかけていても卵を食べてしまいます。どうしようもありませんね？ 卵はヘビの食料なのです。

Students With Sai: Conversations 1991 to 2000
pp.247-248



ベジタリアン クッキング

デーツ入り ココナツクッキー



【材料】

- ・ドライデーツ 30g
- ・生おから 50g
- ・豆乳 80cc
- トウジンビエ粉 25g
- 米粉 25g
- ベーキングパウダー 小さじ1
- 純ココア 小さじ1
- ・ココナツオイル 20g
- ・塩 ひとつまみ
- ・クッキングペーパー
- ・ナツ（飾り用） 12～16個

【作り方】

1. ドライデーツを水で柔らかく戻し、柔らかくなったら細かく刻む。
2. ボールに生おからと豆乳を入れて混ぜる。
3. 2に●の粉類、ココナツオイル、塩、1で水に戻したデーツも入れてよく混ぜる。
4. オーブンを予熱で180度に温めておく。
5. 天板にクッキングペーパーを敷き、クッキーの種を直径3～4センチくらいの平たい丸形に成形、12～16個くらいできる。その上にナツ類をひとつずつ載せる。
6. オーブンが温まったら、10分焼いて完成。

※トウジンビエ粉：ミレットパウダーまたはバジラ粉ともいい、チャパティやロティなどを作るときに使います。

<https://shop.ambikajapan.com/products/ambika-bajra-atta-millet-powder-500g>

トウジンビエ粉パン



【材料】

・水 (28~30°Cくらい)	200cc
・トウジンビエ粉	100g
・米粉	180g
・ドライ天然酵母	一斤分
・甜菜糖	12g
・塩	4g
・黒ゴマ	大きじ1
・ココナッツオイル	20g
・豆乳	20cc

【作り方】

1. パン焼き機に材料を、水から順番に全部入れて「こね、発酵」のスイッチを入れる。約40分（機械によります）。
2. 発酵が終わったら、取り出して8つに分けて丸める。
3. 2を皿にのせて、濡れ布巾をかけ20分置く。
4. オーブンを200度に温めておく。
5. 天板にクッキングペーパーを敷いて、3のパン種をもう一度丸め直して、オーブンに入れて10分焼いて完成。

※ドライ天然酵母は今回「白神こだま酵母」を使用しました。 <https://www.sala1.jp/>

ババ様の御言葉

想念は食物と環境から生まれます。サトウイックな食物のみを食べ、善なるもののみを望むのであれば、善い想念しか湧きません。

『サティア サイババとの対話』p.105

帰依者体験談



Bro. Mukul Swain (ムクル スウェイン)

シュリ・サティヤ・サイ・ババの神聖な蓮華の御足に謙虚な祈りを捧げます。

私の名前はムクル スウェインで、シュリ・サティヤ・サイ・ハイヤー・セコンダリー・スクール（ブラシャーンティ・ニラヤムにあるババの高等学校）の卒業生です。現在、JAIST（北陸先端科学技術大学院大学）で修士号を取得中です。

IITガンジー・ナガール（インドのグジャラート州にあるインド工科大学）とJAISTのダブルディグリープログラムの一環として、10ヶ月間だけ日本にいます。今、日本のサイの帰依者の皆さんと一緒にいられることをとても嬉しく思っています。そして私の経験を分かち合う機会を与えてくださったスワミに感謝しています。

今回は5つの体験をお話しします。

まず1つ目は、私がどのようにしてスワミの元へ来たかです。

2番目は、私がサイの生徒になるきっかけとなったことです。

3つ目は、10年生の時に見た夢です。

4つ目は、12年生の時に見た夢です。

そして5つ目は、日本に来て勉強する機会を得たことです。

最初は、私がどのようにしてスワミの神の庇護を受けるようになったかです。

当初、私はシュリ・サティヤ・サイ・ババが誰なのか知りませんでしたが、何人かの友人が日曜日にバルヴィカスのクラスに行っていました。私はよく彼らを見て、どこへ行くのかと尋ねたものです。聞くと、彼らはサイ・センターの、バルヴィカスクラスに行っていると言いました。

私が7歳の時、隣人が家族でプッタパルティに旅行していたことがありました。私は好奇心からその友人にプッタパルティについて尋ねると、「神のダルシャンを受けに行くのだ」と言いました。その答えに呼応するかのタイミングで、数日後、テレビを見ていると、突然、アフロヘアーでオレンジ色のローブを着た人が映っていました。そして偶然にも、次の日曜日に母が私をバルヴィカスクラスに連れて行ってくれました。そこで私は、テレビで見たのと同じ大きな写真を見て驚きました。それで初めてスワミのことを知り、それから定期的にバルヴィカスクラスに通うようになり、そこから神聖な旅が始まりました。

2つ目は、私がサイの学生になるきっかけとなったことです。

バルヴィカスのクラスに通い、スワミとその教えについて多くを学んでいたにもかかわらず、私はスワミの施設についてよく知りませんでした。2年後、私の家族はプッタパルティへの小旅行を決心しました。プッタパルティに着いてから、私はプッタパルティの環境が、とても特別で、心が癒されるのを感じました。それに加えて、白いシャツとズボンを着た多くの学生たちがスワミの近くに座る機会を得ていて、いつもスワミの特別な注目を浴びているのを目にしました。その時、私は無邪気な心から、スワミにもっと近づきたい、スワミの愛を感じたいと願いました。

10年生のときに見た夢

そして成長するにつれ、私は高等学校の入学手続きについて知るようになりました。ある日、10年生の最終試験の準備をしていたときのことで、スワミがやってきて、期末試験の準備はどうなっているかと尋ねてこられる夢を見ました。私は「スワミ、特別なことは何ともありません、ベストを尽くしています」と答えました。するとスワミは、期末試験が終わったらプッタパーティに来るようにとおっしゃいました。そして最終試験が行われている間に、私はスリ・サティヤ・サイ・ハイヤー・セコンドリースクールを受験し、スワミの恩寵によって合格し、入学する機会を得ました。

高校に入学してからは、学問的な知識を高めるだけでなく、人生の精神的な側面にも取り組む機会がたくさんありました。



一番手前が Bro. Mukul

ホステル（学生寮）では毎日が特別な日で、パーラーヤナムのセッション（神話の朗読会）が頻繁に行われ、人々の経験から直接にスワミについてと、その御教えを知ることができました。また、多くのお祭りを祝いながら、その裏に隠された意味を学びました。また、コミュニティでの生活も教わり、その後の人生で大いに役立ちました。

12年生のときに見た夢

日々が過ぎ、私はまた12年生の最終試験に臨まなければなりません。数日後、試験が始まり、化学の実技試験の日に、スワミを信じないととても変わった厳格な化学の実技試験の外部試験官が、スワミの存在について質問もするというのを、試験を受けた友人から聞きました。この話を聞いてから、私はとても緊張し、その同じ試験で、自分がどんな成績を取るのか心配になりました。

緊張した心のまま、私たちは皆、心を落ち着かせるために昼寝をしました。そのとき見た夢の中に、大きな壁があらわれ、そこに3本のロープが垂れ下がっていました。私は少し混乱して、どうしたらいいかスワミに尋ねました。するとすぐにスワミは「心配しないで登り続けなさい」と仰いました。「もし落ちて、私はいつでもあなたを捕まえるためにここにいます。」

それから私は別の質問をしました。「スワミ、頂上

に着いた後はどうしたらいいですか？」

スワミは「心配しないで、私は反対側であなたを迎えるから」と仰いました。それで夢は終わり、私たちは試験を受けに行きました。

日本に来て勉強する機会を得たこと

高等学校12年生を卒業した後、私はオリッサ州の大学で化学工学の学士号を取得しました。最初のうちは、外の世界がそれまでの生活と大きく異なっていたため、大学に馴染むのにとっても苦労しました。しかし、スワミの学校で学んだ教えと価値観が、外の混沌の中を安全に航海するのにとても役立ちました。

両親もその大学での私の生活を心配していましたが、スワミのご加護のおかげで、私はどんな無秩序や混乱にも巻き込まれることなく過ごすことができました。そして学部課程が終わりに近づくにつれ、私はまた進学のことを心配するようになり、JAIST（北陸先端科学技術大学院大学）で修士号を取得したいと思うようになり、北陸先端科学技術大学院大学の何人かの教授に願書を出しました。

残念ながら、その時は修士課程に進む機会を得ることはできませんでした。しかし数ヶ月後、スワミの恩寵により、私はインドの最高学府のひとつであるIITで修士号を取得する機会を得ました。

入学して1週間後、IITがJAISTと共同でダブルディグリープログラムの候補者を選考する面接がありました。

このプログラムでは、修士課程の1年目をインドのIITで、修士課程の2年目を日本のJAISTで学びます。そこで、M先生（スワミの帰依者）が面接のメンバーとして参加しているのを見て、本当に驚きました。そして、スワミがいかに綿密にすべてを計画されていたかを感じました。

間違いなく、私は面接に対してとても緊張していましたし、面接でどのようなパフォーマンスができるか少し心配していました。しかし、スワミのご加護のおかげですべてがスムーズに進み、夕方には面接の結果が出ました。自分が選ばれたことを知って驚きました。そして家族もとても喜んでくれました。そしてまた、私の人生にスワミの祝福を感じることができました。

それは面接の結果だけでなく、スワミがどのようにすべてを計画し、驚くことに私が望んだ以上のものを与えてくださったかということでした。またこの経験は、人生で予期せぬ状況に直面したとき、いかに失望してはいけないかを教えてくれました。

私がこれまでに経験したすべてのことを振り返ってみると、それらはすべて、スワミのご計画を完全に信頼してスワミに身を委ねれば、あとはどうにかな

るといことです。

辛抱強く読んでくださって本当にありがとうございました。

このような機会を与えてくださったスワミに感謝します。皆さん、ありがとうございます。

Jai Sai Ram



ガネーシャチャトルティ 日本海にて

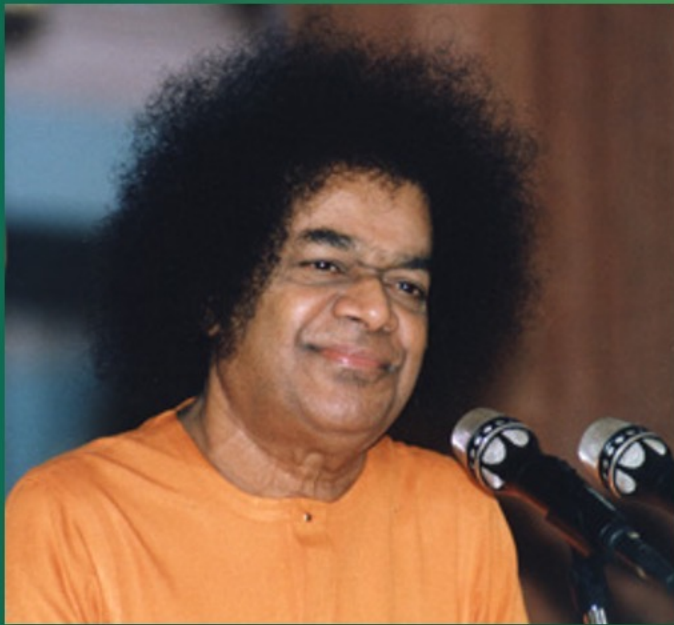


プロフィール: Bro. ムクルスウェイン
インドのオリッサ州ブバネーシュワル出身。IITガンジー・ナガル（インドのグジャラート州にあるインド工科大学）と、JAIST（北陸先端科学技術大学院大学）に在籍中。「2023年9月 金沢・名古屋センター合同ガネーシャチャトルティ」の礼拝でプジャリを務めた。現在、金沢グループに所属し、バジャンリードシンガーや、全国スタディサークルで活躍中。



<活動報告>

スタディーサークル



開催日：2022年3月13日（日）

テーマ：ヒンドゥー新年

参加者：35名

質問：

- ①スワミ※1は良いことも悪いことも人間の思いの結果であるとおっしゃいる。思いが運命を形づくらないようにするには、どうすればよいか？
- ②人々は新年の誓いを立てるが、より良い自分になるには、どのような決意が有益か？
- ③スワミが教えて下さったUGADI(ウガーディ※2・テルグ正月)にまつわる5つのマハーストラ(簡明な規則)の中で、特にどれを自分のフォーカスにしたいか？また、それはなぜか？

UGADI(ウガーディ・テルグ正月)にまつわる5つのマハーストラ(簡明な規則)

U: Unity of Thought, Word and Deed (思いと言葉と行動の一致)

G: God is Now Here (神は今ここにいる)

A: As you sow, so you reap (蒔いたとおりに刈り取る)

D: Dedicate all your actions to lord (すべての行いを神に捧げる)

I: I want peace (私は平安が欲しい)

<参加者のコメント>

… ①スワミ※1は良いことも悪いことも人間の思いの結果であるとおっしゃいる。思いが運命を形づくらないようにするには、どうすればよいか？

「今、ウクライナ問題や戦争が起こっている。サイセンターで一日3回世界平和に祈ることとなり、今までそういったことをしてこなかった私だが、日々流れてくる悲惨な状況を目の前にして、初めて世界平和を祈ることができた。しかし子供の病院が爆撃されたというニュースを聞いてすごい怒りにまみれてしまった。そしてその日の二つのサットサング(善人との親交)で聴いた話から教わることがあった。一つはビーシュマ※3が子供を殺されて怒ったときに、ドラウバディー※4から憎しみをもつものではないと諭されたというお話で、もう一つは、バガヴァッドギター※5の中のお話。すべて敵も味方もなく、憎しみも一切なくすべてを平静に見るという教え。まさにいろいろなことが起きた中でも、平静を保っていく。そして世界への祈りをもつということを教えられたように思った。敵と味方とか、これが良いとか悪いとか、善悪を判断しないのはなかなか難しいが、本当に平静に見ながら祈っていくということではないかと思う。」

「思いどおりにいかないとき、ストレスや、反感、反発の思いが沸きあがってきたりする。そういう自分の感情と離れて、常に平安とか幸福でいられるように、それを持続できるように、自分を制御できるようにならないといけないと思う。職場でも一時的にストレスフルの時は、まるで戦場みたいだ。そういうときに平安、平安、シャンティ、シャンティと思うようにしていると、心も落ち着いてくる。とにかくどんな状況でも自分が一番落ち着いて、悪い感情が出ないようにしていれば悪い種を撒くこともないので、そのように努めたい。」

… ②人々は新年の誓いを立てるが、より良い自分になるには、どのような決意が有益か？

「しっかりとした強い決意が大切。それが持続できる人は良いが、私の場合は以前スタディーサークルで教わった、習慣を作るためのノートを書いている。毎日ノートに書いた『することリスト』をチェックして続けている。やはり毎日毎日、決意を新たに持続していくことが私の場合は大切。」

… ③スワミが教えて下さったUGADI(ウガデー・テルグ正月)にまつわる5つのマハースートラ(簡明な規則)の中で、特にどれを自分のフォーカスにしたいか？また、それはなぜか？

「現在、コロナの蔓延や戦争、いろいろな悪いことがいっぱい起こっていて、良いことを見つけるのは非常に難しい。だが、こういう時こそいろいろなサーダナをとおして自分を常に冷静にし、静かに平静でいることではないかと思う。」

「私は5つのUGADIのマハースートラのD『Dedicate all your actions to lord』の『すべての行いを神に捧げる』にフォーカスしたいと思った。なぜかというと、自分の行いの良し悪しを見直して、神に捧げるため良いものにしたいから。しかしもし間違いや、悪い感情が出てしまっても、それすらも、ごめんなさい、今間違えてしまいましたと捧げて見直す。そのようにして、間違いも次へのステップとなると思ったので、Dを選びたい。」

「私は前回のスタディーサークルの平静さをテーマにしたサットサングの紹介動画でのBro.アラヴィンドのお話にとっても感動した。そのようにすべては自分のために良いことであると思えるように、G『God is now here』の神は今ここにいる

というのを特に留意して、これは自分のために良いことだと、ただ起こることを淡々と見ていけるようになればいいと願っている。」

<サイの学生のコメント>

… ①スワミは良いことも悪いことも人間の思いの結果であるとおっしゃいる。思いが運命を形づくらないようにするには、どうすればよいか？

「サイスクールの高校2年生の時に先生から学んだのは、自分で考えたことは良いことであっても悪いことであってもすべて神様は祝福してくださっているということ。そしてスワミは、良くないことがあっても、他の良かったことを常に思うことの重要性をおっしゃってきた。だから私たちは意図として他人の良い点だけを考えるべき。皆で集まってバジャン(神への讃歌)をする理由の一つは、人々の善良な思いを形にすることができるから。例えば、私がサイ大学の在籍時にインドでサイクロンが発生していたときのこと。サイクロンが沿岸部に到達しようかという時期だった。サイ・クルワント・ホール※6で年長者が、サイクロンが到達することを妨げるために、皆で一緒に祈りましようと言った。実際にサイクロンは到達したが、その時の被害は人々が思っていたよりずっとずっと少ないもので済んだ。このように

皆さんの心を合わせた祈りや思いが集合すると、良い結果に繋がるという例だった。」

「私たちの人生は思いをどう理解するのかにかかっている。何か思いが沸いてきたときに、ずっとそれを考えているとそれが大きくなっていく。例えば、自分が何か劣っているという思いにずっと囚われていると、落ち込んだり、そういった影響をずっと受けることになる。その一方で自分を強くするような思いを持ち続けるならば、私たちの自信やポジティブな部分を増強すると思う。それは思いに応じてどのように私たちの身体が反応するのかということ。ポジティブな思考が良いエネルギーをもたらす。同時に自信過剰にならないようにしていかなければならない。もし私たちがポジティブさをもっていればポジティブになり、ネガティブな思いをもち続ければそれが付いて回ることになる。」

… ②人々は新年の誓いを立てるが、より良い自分になるには、どのような決意が有益か？

「絶えず他者から学び続け、他者からいろいろな教訓を受け入れ続けることが、絶えずより良い自分になっていくために大事なこと。他者の意見から影響をあまり受けすぎることの良いことでは

ないが、少なくとも他者の意見に一定以上の重きを置いて、その中で役に立つことを選んで受け入れていくことが大切。つまり同時に、他者の意見に過剰な重要性を置くことも避ける必要はある。本当に自分が理解している範囲では、新年の決意などにおいても、他者から学んでいくことができる。」

「次の2つのことについて、考える必要があると思う。一つは、より良い人間になるという目的地に辿り着くためにどんな行動が必要かということ。より成長していこう、前に進んでいくための努力。ときには道を下る場合もある。この新年の決意において大事なものは、私たちが実践可能な決意を設定することが非常に大事だと思う。そして、それを実践するうえでは、一人ひとりの旅の道はユニークであり異なるので、当然決意も違うし他者の真似をする必要はない。そして願いが必ずしも叶えられるとは限らないということも念頭に置く必要がある。また、このように立ち向かって行こうと決意をする時に、自分自身が今何処に立ち位置として立っているのかを、一人ひとりが自分自身を評価して、それを知ることから始めていく必要がある。今の自分自身の必要性と自分が置かれている状況をしっかりと分析して評価した後で、この状況にいる自分に必要なことの優先順位は何なのかを考える必要がある。それらのこと

をすべて考慮に入れたうえで、より良い自分になっていくために、前に向かっていくステップは何であるのかを考えていく必要がある。そして、もう一つ非常に大事なことは、このような決意をすることは、必ずしも新年だけに行わなければならないことではないということ。スワミは一瞬一瞬がすべて新しいものであり、遍在であるとおっしゃっている。自分が旅路において少し遅れをとったと感じたときには、いつでも新たな決意をして、どうやって自分がより良くなれるのかという決意をいつでも随時行っていくべき。そして一人ひとりが自分自身のために、それを決意していくことができる。」

… ③スワミが教えて下さったUGADI(ウガディ・テルグ正月)にまつわる5つのマハーストラ(簡明な規則)の中で、特にどれを自分のフォーカスにしたいか？また、それはなぜか？

「個人的には、A:『As you sow, so you reap』、蒔いたとおりに刈り取るという点にフォーカスしてみたい。すべての行動には等しくそれと逆もあり得るということをお考えさせられる。私たちは良い行いで悪い行いをキャンセルできるかと考えがち。しかし実際には悪いことをすればその報いが起きるし、良いことをすればそれは同じこと。常に絶えずコンスタントに行動しなければなら

らない。私たちがもし絶えず良い思いをもっているのなら、それを実践に移して良い結果を得ることができる。それがスワミのおっしゃることで、『自分が思うようになる』という言葉があるが、そういったことなのではないかと思う。いつも私たちは良い思いをもって良い行動をして良い結果を得られるようにしていく必要があると思う。」

ババ様の御言葉

あなたの意識には二つの目があります。すなわち、サティヤ〔真理、真実〕と非暴力（アヒムサー）です。これらはあなたを目的地へと、二つの光へと、内なる空にある太陽と月へと連れて行ってくれる道案内です。もし自分の発言においてサティヤすなわち真実を守る方法を知りたければ、『バガヴァッドギーター』を見てみなさい。ギーターは最良の発言は、「アヌドヴェーガカラム ヴァーキャム」（他人に痛みや怒りや悲しみを生じさせない発言）であると述べています。シャーストラも、同様にこう述べています。「サッティヤム プルーヤット、プリヤム プルーヤット、ナ プルーヤット サッティヤム アプリヤム」——真実を語りなさい。喜ばしく語りなさい。こう言えば聞き手に歓迎されるからという理由だけで、聞き手の支持を勝ち得るために

真実でないことを語ってはなりません。もし真実を語れば悲しみや痛みをもたらすことになるなら、黙っていなさい、ということです。これは日常生活における真実の誓いです。

1967年12月20日

ケーララ州サティヤ・サイ・オーガニゼーション
役員大会の御講話より

※1 スワミ：聖者などの尊称、ここではサイ・ババ様のこと。

※2 ウガーディ：テルグ正月。テルグ語、カンナダ語圏地方のお正月。ユガの始まり、世界の始まりという意味のサンスクリット語のユガーディ Yugadi (yugAdi) に由来する。

※3 ビーシュマ：『マハーバーラタ』の英雄でシャーンタヌ王とガンガー女神との間の子。カウラヴァ兄弟とパーンダヴァ兄弟の大叔父。

※4 ドラウパディー：夫の前で辱めを受けてクリシュナ神に救済を求め救われたパーンダヴァ兄弟の共通の妻。

※5 バガヴァッドギーター：インドの大叙事詩『マハーバーラタ』の中の詩。マハーバーラタの戦いの前にマーヤーによって戦う意気を失ったアルジュナにクリシュナが説いた御教え。

※6 サイ・クルワント・ホール：プラシャーンティ・ニラヤムのダルシャン・ホール

開催日：2022年3月23日（水）

テーマ：[プレーマヴァーヒニー第30節、第31節「サナータナ ダルマ～人類の母なる神」](#)、「[パーラタはサナータナ ダルマの故郷である](#)」

参加者：52名

質問：

- ①なぜこのような原理は古来永遠の法であると言われるのか？なぜすべての宗教の母であるとスワミ※1がおっしゃるのか？
- ②すべての宗教のゴールは一つである一方で、なぜ人々はある宗教を敬い、別の宗教を見下すのか？
- ③パーラタ※2人たちが得た心的傾向（サムスカーラ）を他国の人々がまだ獲得していないとスワミがおっしゃるのは、どのような点であると思うか？

<参加者のコメント>

… ①なぜこのような原理は古来永遠の法であると言われるのか？なぜすべての宗教の母であるとスワミがおっしゃるのか？

「サナータナ ダルマ（古来永遠の法）という言葉について、私自身はきちんと理解できていないと思うが、若いころからヴェーダ※3に触れて、学び、真理がすべてに遍満しているという教えは他にはないと思った。学ぶには膨大すぎて、とても大変だが、なにか一つ本当に理解すると、スピードがついて、子供が母親に駆け寄ってくるようにどんどん引き寄せられる。母のように感じる。たくさん体験して実践して、そのものになれたらいいと思う。」

「サナータナ ダルマというと宗教自体を超えて人間の五つの鞘※4や呼吸などの人間の原理。」

… ②すべての宗教のゴールは一つである一方で、なぜ人々はある宗教を敬い、別の宗教を見下すのか

「宗教は、生命原理を説いているサナータナダルマの一部分。いろいろな角度から教えてくれている宗教そのものは純粋なものだと思う。しかし、そこに人間が絡んでくると、私の宗教とか、私が信じているものだからとか、私の正しさという自分のエゴが出てきてしまうのではないかと思う。そうすると大きな見方ができなくなってくるのではないか。」

「本当は一つひとつすべての宗教を学んで、味わって深く突き止めると、すべては同じものであることがきっと分かると思う。自分が選んだものが一番良いものと考えたり、少ししか知らない他のものを、一部見ただけで判断してしまったりする行為は無知であり、一部しか見ていないことが一番の原因であると思う。」

… ③パーラタ人たちが得た心的傾向（サムスカーラ）を他国の人々がまだ獲得していないとスワミがおっしゃるのは、どのような点であると思うか？

「パーラタにおいては悟った聖者や賢者が最古の知識を正しくそのままの形で守り続け、語り継がれていて、人々の魂にも浸透していると思う。そこから拡がっていったことを考えると、人々が自分のものにしようという思いが出て、少しずつ形が変わっていったり、普遍的なものが少しずつ変化して枝分かれしてしまったと思う。そういう点で真理が純粋に守られてきたパーラタにおいては他国と異なる点があるのではと思った。」

<サイの学生のコメント>

… ①なぜこのような原理は古来永遠の法であると言われるのか？なぜすべての宗教の母であるとスワミがおっしゃるのか？

「それは神と同じぐらい古くて、そこからすべての宗教や一切のものが生じた源であるからこそ、それが古来永遠であると言われているのだと思う。一つひとつの宗教は、それぞれが少し異なったタイプのダルマ（本分）にフォーカスしているところがある。いろいろな宗教が示しているダルマを組み合わせれば、それらを統合したものがサナータナ ダルマになっていくのではないかと思う。すべての宗教はこのサナータナ ダルマに従うべきであると思う。すべての宗教がその同じ源に従うならば、それがサナータナ ダルマだと思う。サナータナ ダルマはいろいろと枝分かれして多様な宗教に変わった。スワミはサナータナ ダルマのことをすべての宗教の母であるとおっしゃっている。」

「サナータナ ダルマとは永遠の宗教であるという意味。それが絶対的な義務であると示す法であるから、文字通りサナータナ ダルマと呼ばれる。そしてサナータナ ダルマはいろいろなサーダナ（霊性修行）をその中に構成しており、すべての人間たちが実践していくべきものとなっている。異なった書物は異なったダルマや義務を示している。でもサナータナ ダルマとは美徳そのもののこと。例えば、正直で誠実であることや、他者を傷つけないことであったり、純粋であったり、行いにおいても純粋であったりすること。そう

いったことをすべて含んでいる。サナータナ ダルマは自然でかつ永遠なもの。サナータナ ダルマはすべての人々の行動を支配する法則になっている。それがあらゆる宗教の母であるといわれる所以。このサナータナ ダルマの役割は、私たちを一番太古の聖典に導き戻すことにあるのではないかと思う。そしてヴェーダも神ご自身が直接姿を現したものとされている。それらの法の著者は神ご自身に他ならない。」

… ②すべての宗教のゴールは一つである一方で、なぜ人々はある宗教を敬い、別の宗教を見下すのか？

「多くの人が自分の宗教を実践することよりも、自分の宗教が正しいことを証明しようとすることにフォーカスするので問題が起きる。基本的にはすべての宗教の神髄の真実は、まったく同じだが、真実がどのように説かれているか、その説明の仕方が宗教によって異なっているだけであると理解している。どういうことを実践するかということ、一番母なるおおもとの宗教から引き出して、実践していくということが良いのではないかと思う。例えば、瞑想という霊性修行を仏教徒も採用しているし、一部のクリスチャンも採用している。バジャン（神への讃歌）を歌うことも、ヒンドゥー教にもシク教※5にも共通している。お

もとの母なる宗教であるサナータナ ダルマから引き出してサーダナを実践することは、どの宗教においてもできる。その一方で、他の宗教を見下ろすことは決して推奨できることではない。もし誰かが他の宗教を見下ろすならば、宗教とはどういうものであるか、自分の宗教も含めて、それを理解していないということになる。」

「現代社会の中で、この2番目の質問が一番大事な点であり、この問題によって、今日世界の多くの場所で戦争が起こり、血が流されている。すべての人が、すべての宗教というものは同じ一つの真実を言っていることを理解しなければならないと思う。大半の人は自分が信じている宗教がより優れたものであると思い込んでいるから。そのような考え方は、ほんの一部の人の利益にしかない。一度プラシャーンティ・ニラヤム※6で、宗教間の一体性と、宗教間の調和という会議が開かれ、様々な宗教の人々がそこでスピーチする中で、ある一人のグル（霊性の師）、特にサナータナ ダルマに従っているというグルが発言した。その方が述べたのは、『今日の構造の中で大きな問題というものは、たった一人の神しかいないと思われていることです。それは間違っています』ということだった。そのグルによれば、正しいコンセプトはただ神がいるということであって、唯一の神でなければならないわけではないということ。大半の宗教は唯一の神様だけを

強調しており、一つの神だけにスポットを当てたものにすぎない。もし、神がいるというだけで、そこに普遍意識があると考えれば、その論争は終わる。これが今日世界で起こっているすべての宗教の問題の根源にあると思う。」

… ③パーラタ人たちが得た心的傾向（サムスカーラ）を他国の人々がまだ獲得していないとスワミがおっしゃるのは、どのような点であると思うか？

「パーラタの国では兄弟同朋という考え方がある。他のいくつかの文化ではそういった点が欠けているところがあるかもしれない。インドには多様な言語があり、色々な祝祭があるが、たとえインドの中にどれほどたくさんの言語や祝祭があったとしても、人々の中には兄弟同朋意識がある。それに関して私たちが理解しなければならないのは、得るべきサムスカーラ、心的傾向というのは、私たちがその文化において、ある一括りの価値に従っていかなければならないこと。それが本当の文化であり心的傾向だと理解することが大事だと思う。なぜなら私たちがもっている一括りの価値がどんなものであるかによって、毎日の生活の中でそれに基づいた幸せや悲しみを得ていくことになり、私たちが日々成長していくことができるかどうかを左右するからだ。」

「この世の中のあらゆるものは互いに関係している。一体性の感覚から、愛や思いやり、規律などがすべてが来ると思う。しかし多くの人何らかの心的傾向によって十分な愛や思いやりなどを得ることができずにいる。すべての人々には幾分の兄弟同朋心もあれば、幾分の邪悪な性質、何らかの心的傾向を必ずもっている。どの程度のサムスカーラをもっているかということは、どの程度その人が心的傾向を外部から受け取って自分のものにしたのかということに依存していると思う。」

「スワミがバーラタ人に関連して話されたご講話で、時に人々がそのような良くない心的傾向をもつことがあると述べられたことがあった。例えば、太古の昔のヨーギ（ヨーガ行者）の人間性を見ると、常に内側の真の自分自身の近くにいるような心的傾向があった。そして多くのヨーギは森に棲んで、人里離れたところで瞑想したりする人生を歩んできた。祈りというものとは何かを願い求めるものではなかった。ヨーギが神に祈っていたのは、何か欲しいというのではなく、執着を捨てて神に近づけるようにと祈ってきた。一方で、今日の人々はより快適さが欲しい、お金が欲しいという逆の方向の祈りをもっており、結果として、どこに限界があるのかということさえもわからなくなっている。ヨーギが古来にもっていた

ような常に無執着でいようとする心的傾向をより学んでいかなければならないと思っている。」

<ババ様の御言葉>

怒りの炎、慢心の炎、憎悪の炎、妬みの炎は、他の炎よりも壊滅的です。これらの炎は、心の中で密かにめらめらと燃え上がります。そしてつねに、もっともっと油を注げと要求します。ギターの中で、炎はアナラと呼ばれています。なぜなら、「アナラ」には「不十分」という意味があるからです！炎は決して「もう十分だ」とか「満足だ」とは言いません。あなたは遠くで炎が燃え上がっても怖がります。そうであれば、あなた自身の中で炎が燃え上がったらどうでしょう？ あなたはどうやってその恐ろしい炎を消すのでしょうか？ サナータナ ダルマ〔古来永遠の霊的な法〕には、経験によってテストされ、聖仙たちによって保証された、いくつかの消火剤があります。それらは、真理（サティヤ／真実）、ダルマ、平安（シャーンティ）、愛（プレーマ）です。それらをあなたのハートに染み込ませなさい。そうすれば、炎を遮断することができます。

1965年3月1日

https://sathyasai.jp/discourses/discourses/d_19650301am.html

※1 スワミ：聖者などの尊称、ここではサイ・ババ様のこと。

※2 バーラタ：インドの正式な国名。バラタの子孫の意、「神を愛するもの」の意。

※3 ヴェーダ：神聖な真理の言葉、神の息吹の集成であり、古代インドの聖賢たちによって視覚化された。もとは一つだったものをヴィヤーサ仙がヤジュル ヴェーダ、リグ ヴェーダ、アタルヴァ ヴェーダ、サーマ ヴェーダの四つに編纂した。

※4 五つの鞞：パンチャコーシャ。食物鞞（アンナマヤ コーシャ）、生气鞞（プラーナマヤ コーシャ）、心理鞞（マノーマヤ コーシャ）、理智鞞（ヴィグニャーナマヤ コーシャ）、歓喜鞞（アーナンダマヤ コーシャ）。ヴェーダによれば、人間に内在するアートマは五つの鞞（コーシャ）に覆われている。

※5 シク教：総本山はインドのパンジャーブ州のアムリトサルにあるハリマンディル（黄金寺院）。グル・ナーナクを開祖とし、教典は『グル・グラント・サーヒブ』（原型は『アーディ・グラント』）。シク教寺院はグルドワラーと呼ばれる。一方小規模な寺院はダルバールと呼ばれる。宗教改革者カビールとイスラーム神秘主義スーフィズムの影響を受けている。シクとはサンスクリット語の「シヤ」に由来する語で、弟子を意味する教徒達はグル・ナーナクの弟子であることを表明している。グルとは師匠という意味である。

※6 プラシャーンティ・ニラヤム：プッタパルティにあるサイ ババの住まいとアシュラムの総称、至高の平安の館の意。

体は色の付いた風船に例えられます。風船の大きさや色は違いますが、風船の中の空気は同一です。同じ空気が風船の中にも外にも存在しているのです。風船の中の空気は良心に例えられ、あらゆる所に遍在している空気は意識に例えられます。風船にどんどん空気を吹き込んでいくと、最終的には破裂して、中の空気（良心）は外の空気（意識）と融合します。同様に、あなたの愛を拡大しなさい。そうすれば、体への執着という風船が破裂して、あなたの内なる良心は外の意識と融合します。



神の力は生まれることも死ぬこともありません。私は褒められても嬉しくありませんし、責められても落ち込みません。私は人生のこうした二元性を平静に扱います。私は苦楽のどちらにおいても幸せです。私の中には愛しかありません。私の愛は、与え、与え、与えることで生きています。愛は決して受け取りません。これが、私の愛と、受け取ることだけを考える世俗の愛との違いです。だからこそ、私の愛はずっと拡大し続けているのです。小さな種が、多くの枝と実をつける巨大な木になります。その木の一切は、小さな種に起源があります。それと同じように、被造物は愛から生まれました。愛は神です。愛の中で生きなさい。愛を育みなさい。すべての人を心から愛しなさい。愛が現れて、初めてあなたは自己実現〔真我顕現〕を達成するのです。



今日はこの体の誕生日です。実際には、私に誕生日はありません。皆さんがここに集まったので、私は今日を誕生日として祝っているのです。私には、この誕生日は重要ではありません。あなた方全員が幸せな日が、私の本当の誕生日です。私は何も欲しません。皆さんがプレーマ〔愛〕とティヤーガ〔犠牲〕とヨーガ〔神との合一の行／自制〕を吸収して、それによって神性を経験するとき、私は幸せでしょう。私は、皆さんが平安と安全の中で理想の生活を送ることを願っています。この縁起の良い日に、あなたのハートを高潔な感情で満たし、神の御名を唱えなさい。

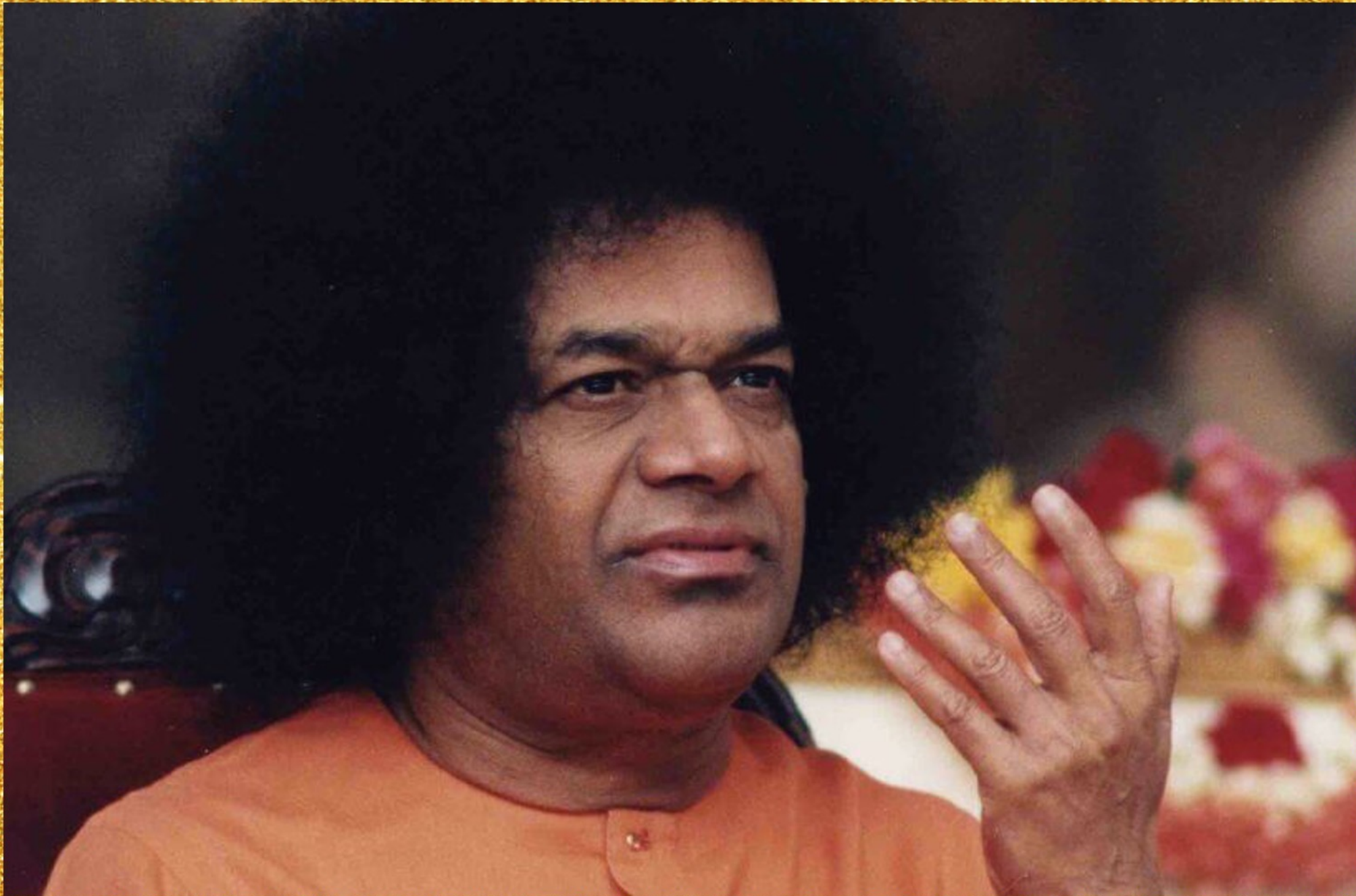




あなたの子供の無邪気に遊ぶ姿は、あなたを楽しませてくれることでしょう。しかし、仕事の邪魔をしたり、あなたをからかうならば、あなたは子供に怒ります。子供は喜びのたねでもあり、嘆きの原因ともなります。

悲しみをともなわず、楽しみだけをあたえるものは、この世の中にありません。たとえあったにせよ、それが失われれば、すぐに悲しみがやってきます。それがものごとの理というものです。喜びと悲しみの源泉をコントロールし、引きつけたりはねつけたりを絶えずくりかえすこの物質世界の、真の本質を認識するように心を訓練しなさい。それが教育の真の成果です。

BABA



Jai Sai Ram